

上條暢高 冷静と情熱の間



私を揺さぶる、グランプリ。12月16日からボートレース住之江で開幕する1年の総決算、SG「第40回グランプリ」に向けた特別企画。「Road to THE GRAND PRIX キャンペーン」と題した企画の第2弾としてトップレーサーの上條暢高（31＝大阪）にスポットライトをあてる。過去に出場したGPの振り返り、盟友への思い、住之江への熱意、最高の栄誉をつかむための意気込みなどを熱く語った。
（取材日＝8月23日）

上條暢高 私のメンバー

枠番	選手名
1	雑賀 勇貴
2	木下 翔太
3	上條 暢高
4	上條 嘉嗣
5	井上 一輝
6	岡村 仁

↑上條選手が考える優勝戦メンバー↑



25年若松メモリアル

これが俺のグランプリだ。当企画に登場した選手が「理想のグランプリ」出走メンバーを独断で作成。いつか夢の一番が実現する日がやってくる。

そんな冷静沈着な上條が、人前でうれし涙を流した。太閤賞で地元G1初制覇を果たした直後だ。「うれしいのに泣くんだ、と思った。泣くとは思ってなかったんで、僕が一番驚いた。やっぱり住之江で勝ちたい。もう少しフラットな方がいいかもしれないけど、そこは気持ちが入る。いつも通りのつもりですけど、もう少し温度を下げてもいいかも」と笑う。

来年のGPは大村。再来年は未定。「GPは住之江なので。本当にそう思うので。住之江で活躍したい」。何もできなかった初出場、2ndに進出した2度目。過去、GPでTR計7走しているが、全て5、6枠だ。「好枠をもう少し引けていたら、もっと上まで行けたのではないかな。1回目より2回目、2回目より3回目ですよ」。今年の年末、クールに燃える上條が、地元でファイナル進出を目指す。

体が勝手に動いた。2周目ホーム、上條暢高は先行する西山貴浩の外側に艇を合わせ激しい2着争い。2着勝負は理解していた。抜かなければ敗退が決まる。その瞬間、上條は内に切り返し、2周1Mで逆転、2番手を譲らずゴール。昨年グランプリ、TR1st2回戦11Rの逆転劇で、上條は初の2nd進出を決めた。

「体が勝手に反応した。本当に自然に動いた。この位置じゃ無理だとは思った。もう、勝手にです。その瞬間は何も考えていない」。2ndは5、3、6着。順位決定戦は5着。2度目のGP、収穫はあった。初のGPは22年大村大会。16位で出場した。TR1st1回戦は5枠で6着、2回戦は6枠で4着。「ふわふわしたまま終わった。一瞬だった。えっ？もう終わり？みたいな感じ」。何もしないまま終わってしまった。自分が参加していないような感覚にすらなった。昨年、2度目のGPは18位で出場。6枠から4着、5枠から2着で2ndへ駒を進めた。「大村も外枠2走、去年も6、5枠だった。それで1stを突破できた。前進ですね。地に足がついて、自分のスタイルで戦えた。大村のふわふわ感は全くなかった」。

体が勝手に動く。上條の好調時のパロメーターだ。「それがいつも通り。その瞬間、考えている暇はない。あのGPも、体が勝手に反応したのは、いつも通りだったんだ」。

平常心

頭はすごく冷静だけど

気持ち的には

入れているかも

そのあんばいが難しい

めながらも、クールに冷静に。「僕にとって、それが一番いい状況」。フラットなメンタルが、レースでの判断力、鋭いタインにつながっている。

タイプではない。気持ちの高めな分、クールに冷静に。フラットなメンタルが、レースでの判断力、鋭いタインにつながっている。

そんな冷静沈着な上條が、人前でうれし涙を流した。太閤賞で地元G1初制覇を果たした直後だ。「うれしいのに泣くんだ、と思った。泣くとは思ってなかったんで、僕が一番驚いた。やっぱり住之江で勝ちたい。もう少しフラットな方がいいかもしれないけど、そこは気持ちが入る。いつも通りのつもりですけど、もう少し温度を下げてもいいかも」と笑う。

来年のGPは大村。再来年は未定。「GPは住之江なので。本当にそう思うので。住之江で活躍したい」。何もできなかった初出場、2ndに進出した2度目。過去、GPでTR計7走しているが、全て5、6枠だ。「好枠をもう少し引けていたら、もっと上まで行けたのではないかな。1回目より2回目、2回目より3回目ですよ」。今年の年末、クールに燃える上條が、地元でファイナル進出を目指す。

フラットなメンタル

体が勝手に動いた。2周目ホーム、上條暢高は先行する西山貴浩の外側に艇を合わせ激しい2着争い。2着勝負は理解していた。抜かなければ敗退が決まる。その瞬間、上條は内に切り返し、2周1Mで逆転、2番手を譲らずゴール。昨年グランプリ、TR1st2回戦11Rの逆転劇で、上條は初の2nd進出を決めた。

「体が勝手に反応した。本当に自然に動いた。この位置じゃ無理だとは思った。もう、勝手にです。その瞬間は何も考えていない」。2ndは5、3、6着。順位決定戦は5着。2度目のGP、収穫はあった。初のGPは22年大村大会。16位で出場した。TR1st1回戦は5枠で6着、2回戦は6枠で4着。「ふわふわしたまま終わった。一瞬だった。えっ？もう終わり？みたいな感じ」。何もしないまま終わってしまった。自分が参加していないような感覚にすらなった。昨年、2度目のGPは18位で出場。6枠から4着、5枠から2着で2ndへ駒を進めた。「大村も外枠2走、去年も6、5枠だった。それで1stを突破できた。前進ですね。地に足がついて、自分のスタイルで戦えた。大村のふわふわ感は全くなかった」。

体が勝手に動く。上條の好調時のパロメーターだ。「それがいつも通り。その瞬間、考えている暇はない。あのGPも、体が勝手に反応したのは、いつも通りだったんだ」。



19年下関タイヤモンドカップV

自己紹介

名前 上條暢高

生年月日 1994.1.4

自分の性格 マイペース

趣味 ゲーム、ゴルフ

特技 バスケットボールが得意

得意な決め手 まくり

好きな色 赤と青

好きな食べ物 かいもの

一言 楽しくがんばりたい

上條選手直筆